



カメラ探訪

救急患者の 受け入れ情報をキヤッチ*

岩手県救急医療情報システム始動



▲情報システムの機械の説明を受ける病院関係者（水沢市で）

救急医療情報システムが昨年12月24日から始動した。

このシステムは、コンピューターを活用し県内93カ所の救急病院などの救急患者の受け入れ態勢を即座に把握。患者の容体に応じて搬送先を選んでいく仕組みで県が本年度当初予算に1億2,000万円を計上し、医療機関などの協力を得て整備を進めていた。

コンピューターは、盛岡電報電話局に設置し、ここで救急医療情報を集積して県内14カ所の消防本部、県高次救急センターや地域の

主要病院などに情報を提供。今回設置した端末装置のブラウン管に救急患者の受け入れ態勢を映し出す。救急医療情報とは、診療科ごとの診療の可否、手術の可否、男女別の空きベッドの有無、それに県赤十字血液センターの血液保有状況など。

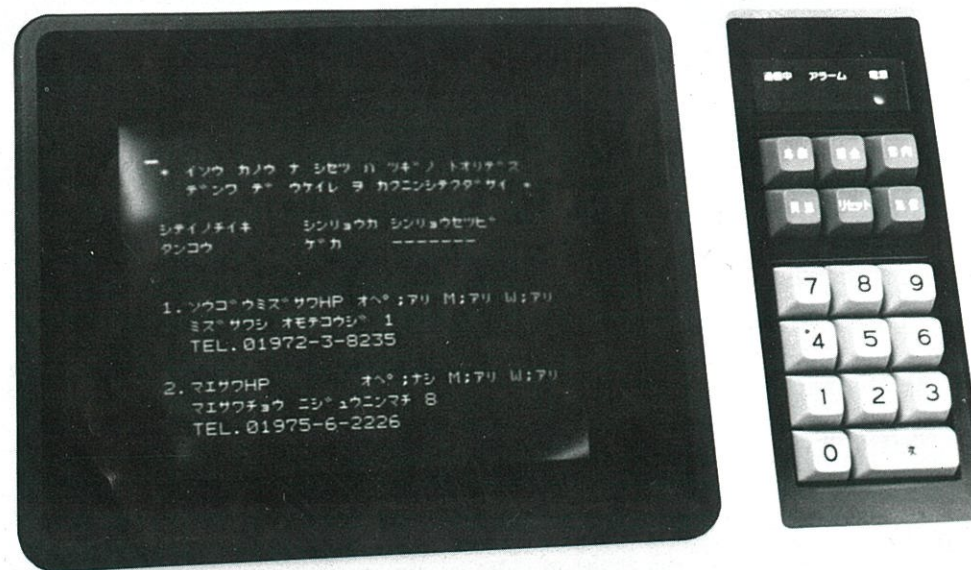
このシステムの導入によって、消防本部と医療機関との情報面での連携が可能になり、救急患者の搬送時間が短縮されるほか、患者のたらい回しが解消できるものと期待されている。



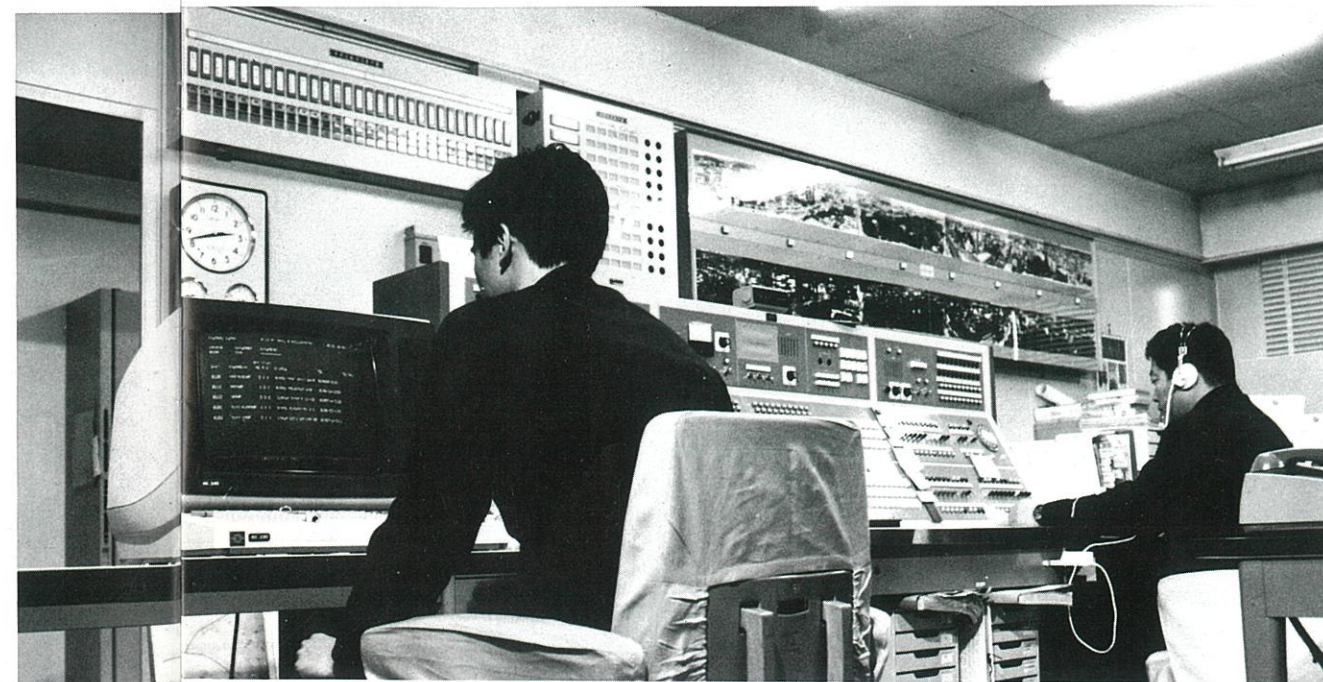
▲夜間の診療には欠かせない夜間急患センター（盛岡市で）



▲情報システムの中核となるコンピューター（盛岡電報電話局）



情報を素早くキャッチする医療機関用端末装置



▲消防本部に設置されたディスプレイ装置。これで患者の搬送先を確認して救急車に指令を送る